

# 高原



1993

9



'93・合同慰霊祭より



'93.合同慰霊祭読経の後の説教を受ける参列者(6.10)



栗生納骨堂前にて、読経の僧侶と参列者(6.10)

## 目次

- ハンセン病資料館落成式に出席して ..... 自治会副会長  
藤田 三四郎...2
- 一期一会 ..... 六合村龍澤寺住職 明田川 道雄...7
- 俳句 ..... 松崎鉄之介 選...9  
自選句「藜あしかばねの杖」後藤房枝
- 短歌 ..... 水野 昌雄 選...11
- 詩 ..... 栗生 詩話会...14
- 川柳 ..... 渡邊 蓮夫 選...17
- 私の履歴書 ..... 原 博 章...19
- 妙法会物故者供養塔建立の慶び ..... 川 上 勇...21
- 全生園を訪ねて ..... 楽泉園ケースワーカー 鈴木 勝 也...24

園内日誌・寄贈図書・編集後記

# ハンセン病資料館落成式に出席して

藤田三四郎

この度、国立療養所多磨全生園（東京都東村山市青葉町四一〇一〇）内東側の一角に、「高松宮記念ハンセン病資料館」が竣工致しました。この資料館は、財団法人藤楓協会創立四〇周年記念事業の一環として、平成四年六月二五日より工事が進められ、建築費六億三千九百万円、敷地面積約六百平方米、構造規模、鉄筋コンクリート二階建、建物の高さ地上より九・四米、建物の外観はホワイト・タイル張りで、新緑の森の中に平成五年六月二五日に完成をみました。

完成に際しては、ハンセン病に正しい理解を持たれた各企業、団体、個人等多数の皆様の尊い財源に加えて、各園の入園者の協力もありました。

開館式には栗生楽泉園より、田中園長、小林名誉園長、田中自治会長と藤田が招待を受けました。途中では、雨に咲く紫陽花の花に心が慰められながら、遠い日の先輩、先人達が迎った悲惨な道程などを語り合いながら、車は一路多磨へ。朝早いこともあって車の流れは順調で、午前八時

四〇分頃には多磨全生園に到着し、その足で会場を訪ねますと、自治会の中央集会所で、高松宮記念ハンセン病資料館建設委員会が開かれるというのであります。会場では既に各園の園長、自治会代表が席に付いておられました。それぞれに挨拶を交わし終えると、一息入れる間もなく司会者より開会が宣言され、まず大谷藤郎理事長の挨拶と所長連盟会長上妻昭典先生から完成までの経過報告がなされ、ついで平沢保治多磨支部長、佐川修多磨支部事務局長より詳細な説明があつて、質問が種々出されました。そして今後の資料館運営について、高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会より次のような資金援助のお願いがありました。

「高松宮ハンセン病資料館」は、建設資金不足の中で、ようやく本日開館にこぎつきましたが、同館の運営には今後とも多額の資金が必要になります。藤楓協会は関係方面に対して、継続的な資金援助を強く要請しておりますが、資料の収集や保存につきましては、早急な対応が

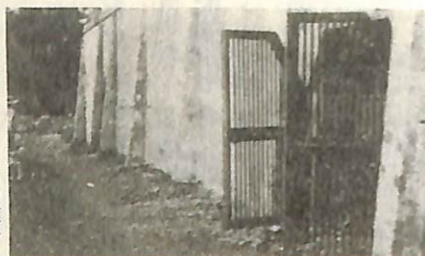


◀重監房跡の碑

◀光明皇后願者を湯浴みさせるの図(絵)



▶草津町の湯元から約4キロ、松をくり抜き、患者作業で埋設された温泉木管



▶禁慎室という名の監房

必要な場合も少なくありません。そこで当面の資金援助を目的として、「高松宮ハンセン病資料館運営協力会」を、国立療養所多磨全生園入園者自治会は発足させました。つきましてはご入館の皆様から、二百円をめどに募金いただければ幸せに存じます。なお協力は団体、ことに医療関係団体であれば、説明会や講演会を企画いたします。日時や経費などについては、二週間前までに相談をお寄せください。

参列者はこの報告を受け、散会致しました。

午前一〇時より、大きな天幕の張られた資料館西側駐車場で、梅雨空の蒸し暑い中、「高松宮ハンセン病資料館」落成式典が挙行されました。藤楓協会総裁高松宮妃殿下、三笠宮寛仁親王同妃殿下のご臨席のもと、各財界関係諸先生とハンセン病療養所各園長、各自治会代表の出席の中で行われました。続いて資料館玄関右側にごさいます高松宮妃喜久子殿下御歌碑の除幕式が行われ、その黒御影石に、「残りたるよはひいとひて春秋を共にたのしくすぐせとぞ思ふ」と刻まれてありました。また、御歌碑の右側に白梅をお手植えされました。

私はこの光景の中に、木洩れ日を受けて芝生の露が、遺影の顔の輝きのように見えました。先人達の喜びの涙が光っているように映ったのです。

次に資料館のテーブルカットが執り行われ、成田名誉園長、

平沼自治会長の案内により、百年に亘るハンセン病についての歴史が説明されました。

出席者は天幕の中にて立食パーティーでコップを交わして旧交を深めながら、共に完成を心より喜び合っていました。

私達が待ち望んだ資料館見学に胸弾ませて館内に入ると、一階には、資料館設立趣旨とハンセン病の医学的説明が述べられてあり、また全国のハンセン病療養所所在地が一目で分かる電光案内盤、中央のロビーにはハイビジョンテレビによる全国の療養所を紹介してくれるビデオコーナー、そして図書閲覧室、映像展示室、特別室と七部門に分かれています。二階の展示内容は、コン・ウォール・リー女史等ハンセン病に貢献された先駆者たちの写真パネルとその説明があり、明治から平成にかけてのハンセン病の歴史を綴った年表、ハンセン病政策と患者の歩み、生活と文化、そしてひとときワリアルな、昔の十二畳半の生活をそっくりそのまま復元した雑居部屋の模型、事件と人物、文学に生きるのコーナーには、らい文学といわれた北条民雄、明石海人と当園俳人村越化石氏、その他には、生きがいを創る、写真コーナー、各園資料と各部門に分かれており、少ない時間でしたが見学することが出来、改めて当時の苦難な時代を思い起しました。再びこのような事が繰り返されないためにも、一人でも多くの一般社会の方々に見学してほしいと思います。

ハンセン病(学名「らい」)は、医学の進歩によって、確実に終息に向かいつつあります。しかし、現在もおお

あわただしく式典に参加して午後二時に多磨を出発し、一路車は栗生の地へと走り、午後七時に到着しました。私はこの記念すべき式典に参加させて頂き、生涯忘れ得ぬ思い出となりました。自治会でも会員の希望をとって、「高松宮記念ハンセン病資料館」見学バスレクを計画し、実施したいと思います。

ここで、「高松宮記念ハンセン病資料館」設立趣旨と栗生楽泉園に関係されている先駆者たちのプロフィールをご紹介します。

#### 「高松宮記念ハンセン病資料館」設立趣旨

藤楓協会は、昭和二七(一九五二)年、貞明皇后のご遺志を継がれた高松宮宣仁親王殿下を総裁に戴いて設立され、昭和六二(一九八七)年、殿下が薨去された後は現総裁高松宮喜久子妃殿下のもと、各界のご支援を頂きながら、我が国の救らい事業に努力して参りましたが、平成四(一九九二)年には創立四〇周年を迎え、故高松宮宣仁親王殿下を追慕し、また過去百年に亘るハンセン病事情の変遷と、その対策事業の歴史を明らかにして後世に資するため、ここに記念資料館を建設し、関係資料を収集、展示して、一般の閲覧に供することにいたしました。

コン・ウォール・リー

(一八五七—一九四一)

ハンセン病(学名「らい」)は、医学の進歩によって

確実に終息に向かいつつあります。しかし、現在もなお、全国一五カ所の療養所には六千数百人の患者さんが療養しておりますし、彼らと彼らの先輩たちが、つい先日まで、不治であり、天刑病であるとして社会から極度に嫌悪され、悲惨な境涯を辿らざるを得なかったことも、歴史の事実としてご承知の通りです。また、これらの患者救済のため、貞明皇后をはじめ皇室の方々、その一生を捧げられた内外の宗教家、医師、看護婦さんなど多くの尊い先人の活動は、不滅の業績として残されており、こうした過去の事実を若い人々にも知って頂きたいと念願しております。

「資料館」建設により、ハンセン病に限らず、治療に向けて励む慢性病患者に対し、社会の誤解と偏見を二度と繰り返すことのないよう正しい理解を深めると共に、なお多くの患者を抱え苦勞している開発途上国の救らい事業等に対しても、皆さんの理解と一層の寄与を期待して止みません。

平成五(一九九三)年六月二五日

財団法人 藤楓協会

コン・ウォール・リー

(一八五七—一九四一)

リー女史は、イギリスのキャンタベリーに生まれた。家は名門で、うっそうとした森に囲まれた大邸宅に住み、一族と使用人合わせて二百人に達していた。幼少の頃から母より信仰教育を受け、熱心なキリスト教信者であった。

一九〇八(明治四一)年、五一才の身で単身日本に渡った。そして日本聖公会に属し、東京、横浜、沼津などを布教した。その間、熊本の回春病院のリデルの経営事業や好善社経営の目黒慰痲園などの、らい患者施設を見学した。一九一六(大正五)年四月二〇日、リー女史は五九才の身をもって、自分の生涯をらい患者と共にする決意で、日本語教師井上和子と草津へ行った。

湯之沢の入り口に草津町伝道所「平和館」を建て、二人の住居とした。昭和八年、喜寿の祝いを受けた後、静養と財産処理のため帰国した。

一九三五(昭和一〇)年帰草したが、その秋から老衰により、明石のミス・シメオンのもとで静養生活に入った。健康は一進一退であったが、昭和一六年二月一日八四才で昇天した。

勲六等瑞宝章が贈られた。

三上千代は、山形県新庄藩士族の家に生まれた。山形高等女学校を卒業し、一九一〇（明治四三）年一七才の時、南伊豆伝道館に勤務、伊豆半島で無教会主義の伝道をつねとしていた。その時、らい患者の少女に出会い、「私が奉仕しなければならぬのは、こうした病者だ」と心に決めた。

一九一七（大正六）年五月、リー女史の招きにより、湯之沢で事業を手伝うことになった。しかし、人口三百人の部落で、医者資格のない看護婦ではどうにもならず、リー女史に訴え、一月服部けさ医師を迎え、「聖バルナバ医院」の看板を掲げ、患者の治療を始めた。

大正一三年一〇月、服部けさと相談の上、リー女史の事業を離れ、「鈴蘭病院」をつくったが、開院二三日目に服部けさは昇天した。服部医師を失った三上は、全生病院へ戻り一時勤務したが、大正一四年に光田健輔の援助を受け、草津に平屋を新築し、「鈴蘭村」を開いた。

一九四一（昭和一六）年には、宮城県に患者家族の児童保育所（第二鈴蘭園）を開設した。昭和三三年六月、ナイチンゲール賞を授賞。昭和五三年八五才で昇天。

服部けさは、一八八四（明治一七）年七月一九日に福島県須賀川で生まれた。明治三八年、東京女子医学校に入り、学生時代に駒込キリスト教会に通い、受洗した。大正三年、三井慈善病院で生涯の友三上千代と出会った。三上千代の後を追って、全生病院に転じ、直接らい患者の看護に当たった。

一九一七（大正六）年一月三日、草津聖バルナバ医院の開設に際し、リー女史や三上千代に招かれ、来草した。大正七、八年頃から草津町の医師は服部けさ一人となった。そのため町医、校医、警察医の囑託となり、その上近郊からの往診には、駕籠に乗せられ五キロ、六キロの山道を出向き、日夜奔走した。

大正九年頃から痲疾、心臓弁膜症のため心悸亢進したが、毎夜枕許に提灯と聴診器を置いて、どんな真夜中でも往診に応じた。聖公会のリー女史と福音教会派の服部三上とは若干の意見の相違があった。「日本のらい患者は日本人で救わなければならない」と、二人は実際の計画を夜の更けるのを忘れて語り合った。大正一三年「鈴蘭病院」は開院したが、二三日目の十一月二日、服部けさは昇天した。

# 一期一会

六合村龍澤寺住職

明<sup>あ</sup>田<sup>た</sup>川<sup>がわ</sup>道<sup>みち</sup>雄<sup>お</sup>

春のお彼岸に沼尾の田村家にお招きされ、縁あって富岡室長さんと居並びよもやま話になっておりました。ひよんな話の合い間に出た話題がいつしか「高原」に向けられていました。

貴園自治会が五〇〇号余りに通巻発行され伝統と高い文化を標榜した「高原」との出合いは既に十六年を経過しています。

生須出身の岡看護婦さんのお母さんが昭和五十二年に他界され、その供養の時に「職場に先生や自治会の方々の発行する月刊誌があるので読みませんか」とすすめられ、中沢の篠原看護婦さんに何冊かにまとめたものを届けてもらったり、その後購読し「高原」との出合いは継承しております。

さて、草津の温泉史であり、加えて歴史中の日本救らい史と高く内外に評価されている「御座の湯口碑」山本よ志郎・加藤三郎御兩人共著を曾て拝読した折、その真実と経緯、そして療養に専心され光明を求める生涯を如実に知り得ることが出来たのは、今に思えば多くの方々とお合う一期の絆であったのかも知れません。私の宗門で今、人権、同和問題を基本的課題として十年になろうとしています。さまざまに生じる差別問題は、「往時の戒名」、「差別図書」、そして「身元調査おことわり」をとりあげております。はじめの運動展開は部落差別、同和問題に直接かゝわる課題からのものでしたがこうした取り組みを推進していく過程において、他の様々の差別問題に眼が開かれました。

道元禅師しょうぎんぎの正法眼蔵から引用した「修証義しゆしぎ」の經典が教示する人権尊重のポスターに、「種姓を観ずるこ

系」等の外見で人を判断し差別して、段階的に観てはいけない、各人が我がごと、して深く考え受け止めるべきことです。

思うところ昨今の社会情勢は多くが自己中心的な現象下であり、日ごとの虚像に眩惑されてしまい、一期の出会い、一会の大切さなどを解く慈しみの妙旨の会得など、白日夢にも等しくなっていないだろうか。今自分の曇りがちの審美眼に珠玉の如く映し出してくれる名士、ならびに自治会の皆様による文章、句集等々、その一句一言に接して味わう一時が永年にわたられた研究分野から受け、未だ対面するを熟さない縁であり乍らも毎月にお名前の上から心のかよい合った大きな喜びに転化しています。

個人の事で恐縮ですが何度か加藤三郎さんをお訪ねしました。齢を重ねられておられますが何時もお元気で、特に書棚には沢山の本が置いてあり、自ら出版の御座の湯口碑、草津の墓誌銘、ぼくらの村、そして盲人会五十周年記念ゆけむりの園等をいただきました。力のこもった話の内容にいつも感動しています。今でも強い印象として記憶に去来する事柄は、御座の湯口碑第二章中に紹介されている「親にすてられ巡礼に出る」、「親子の巡礼」でした。

思うまゝに書いてみたものの、どうか内容や字句の表現に失礼がありますことをご容赦いただきたいと存じます。いづれの邂逅を願ってやみません。皆々様の御多幸とご健康あらんことを念じております。

合掌



君影草ぬかずくほどに近くよる  
鈴蘭に顔を上げれば海風の

# 俳句



松崎鉄之介 選

君影草ぬかずくほどに近くよる  
鈴蘭に顔を上げれば海の風

佐藤母杖

父の齡はるかに越えぬ朝の古茶

郭公の今年も同じ一樹なる

露天風呂翻り過ぐ岩燕

白井米子

葉桜に身を入れ憩ふ仏の地

青リュック背負へる子等に夏燕

山の蝌蚪浅き瀬に身を休めをり

森つや子

春眠の耳に遊ばす雨の音

吹流し見上げる故郷遠き人

明易の山を離るる空の色

田辺トシ江

青き踏む身の一部なる車椅子

よもぎ摘む母の居さうな畦の道

鈴蘭を花束がはり或る別れ

松本やえ

母の日を忘れずに子の来たりけり

吾れもまた養はるる身雀の子

鈴蘭のアーケードめき雨上る

郷土訪ふバスに頭を並べ燕の子

後藤一朗

村越化石

鈴蘭や救癩史いま終焉期

現し世の眠りを包む青葉闇

見えぬ身の見舞や風の薫るなか

白井春星子

衣更へて昨日の身形忘じけり

水すまし山影揺らし遊びをり

ほととぎす身を守ること一善か

金子晃典

庭先に得て伽羅路に適ひけり

雷激し文目もわかぬ墨流し

借りし目に派手なシャツ買ひ更衣

北村巡礼子

新茶濃く淹れて老ひしと思ひけり

宿一軒毀たれし跡たんぽぽ黄

親子孫聖名持ちて風薫る

後藤房枝

新茶汲み宇治十帖の巻に入る

鼻つんぼ正座して汲む新茶かな  
ががんぼや見えねど夜の雨激し

佐藤敬子

花菖蒲寺町行くに人に蹴き

五月野をゆったり流る千曲川

濡れ仏御眼に落花やさしかり

青木 柏葉子

春暁の水の音きく齡なる

吊橋を眼もて渡れぬ五月闇

薫風や老いし闘士の露天湯に

北村 すなほ

飛ぶ鳥を目で追ふに栴咲き揃ふ

黒々と湿れる岩に岩たばこ

風薫る殊に白きはマリヤ像



藜あかさの杖

後藤房枝

山の雨でで虫の子の真珠粒

杖の身と車椅子寄り星祭る

ががんぼの遊ぶに遊ぶ盲の身

一代家滅多打ちして半夏雨

麻痺の手に杖の馴染みて涼しかり

目つむればルソーの青の夏月夜

蛍籠の明りに足れり山住

リー母碑に麦笛奏す目つむりて

終戦日あかざ食ひしを今杖に

捨て甕に天水溢れ星月夜

雪の降る今朝の我が庭咲き初めしチューリップの花なお初

浅井あい

# 短歌



水野昌雄選

沢田五郎

痛めたる腰はいつまでも痛むなりよいしょと言いて畳より立つ

はい掃除と掃除機持ちて来たる人よいしょと我が手取りて立たしむ

骨っぽい奴よと人に言われしがいつしか脆くなりいる我が骨

ただの疲労と思えぬ痛み時々あり道を歩くにも骨が折れるよ

日を浴びよ牛乳飲めよ散歩せよ人に倣いつつ励み来しものを

部屋内に転び骨折繰り返せし友をしきりに思うこの頃昔馴染の看護婦の君わたしだってと他愛なく肋骨折りし話

す  
転ばぬ先の杖の戒め知るなれど転ばぬうちは身に沁みぬなり

背な痛く目覚めがちなる夜にしてほととぎすの声は鼓膜に刺さる

浅井あい  
雪の降る今朝の我が庭咲き初めしチューリップの花なお初々し

庭に咲くチューリップの花の鮮やかさ聞きつつそれで満ち足りている

幾度の霜にも萎えず我が庭に咲き終りたり今年の石楠花

盲い我庭に出ずれば五月野に行きて草々踏みたきものを

食堂より部屋までおよそ四十歩老いて歩幅も狭くなりしか

七十三歳になりたる我や療園にともかくなべてまめに動か

ん

新聞を配り来しこの寮のドア重たし膝で押して入り行く

杖握る手の麻痺しるく自ずから肘が軽々戸を閉めくれぬ

寮の戸を開けては閉めまた開けては閉め今朝も新聞配り終

えたり

水田由利

ぼけ防止と指一本で弾くピアノ電話で聞かす母懸命に

たどたとと明治の唱歌五曲弾き八十年振りに弾くピアノと

ぞ

病むわれを娘の如く気遣いし叔母の死聞けどなすすべもな

し

賽銭を入れぬひげ目を感じつつ山の神社の鈴振って見る

両の手にあまる太さのひも振れば古びて黒き鈴音低く

湧く水を引く樋流るるかたわらにガラスコップのひとつ置かれて

谷沿いに建つわが療舎こもこもに鳴く鳥の声居ながらに聞  
く

夕暮れて散歩にいでし靴先に歩み来てぶつかる猫に驚く  
金 夏 日

核施設存在せぬなら北祖国査察受け入れ疑惑を晴らせ

悲惨なる朝鮮戦争同胞よ絶対二度と繰り返すまじ

車もて迎えに行くからわが宅へ来よと言えども行く勇気な  
し

時ならぬ霜に打たれて庭牡丹蕾一つはついに開かぬ

ハンズ版「点字と共に」が祖国にて出版なるとぞ嬉しき  
ニュース

一つ一つ言葉運びつつ母国語にて「点字と共に」の序文書  
きおり

母国語に翻訳さるる「点字と共に」「舌で読む詩」に書名  
変りぬ

訳される文集思う大いなる期待と不安入り交じりつつ  
田 中 美佐夫

出勤の職員目を楽します正門近くツツジ咲き出す

別名に鬼ツツジとも言われるレンゲツツジは群馬県花な  
りき

公園のつつじ祭に焼鳥の店も出ていて楽しみ多し

古き杖折れた白杖供養するつつじ祭の行事の一つ

青空のつつじ祭にカラオケの飛び入りありて午後も賑わう  
公園に人口池も造られてオタマジャクシの泳ぎいると言う

教会へ信者の通う道すがら白く可憐なマーガレット咲く  
我が園の合同慰霊祭にこの年も療友いくにん身罷りたりき

齊 藤 アキ代

ムスカリの花が咲きたり去年の秋友が持ち来て植えくれし  
もの

雪消えし庭に逸早く萌え出でて咲くムスカリの筒形の花

遙々と面会に来し遠き日の母が目に見ゆ「母の日」の今日

四十人のひのきしんにてセンチターの広き庭辺が清められたり

定年退職せし君も来てひのきしんの人らと共に働き給う

公園にテントを張りて待ちくれしつつじ祭が雨となりたり

準備せしつつじ祭のテントをば濡らし降り出でし雨を憎め  
り

中央会館に移されしつつじ祭と杖供養祝詞の声も今日は寂  
しき

福 島 まさ子

朝な朝な水注ぐべく軒下に屈まり居れば郭公の声

年年に山の小鳥の減りゆくか希に来鳴くは四十雀雲雀

公園に移し植えたる八重桜の花咲きおれどや寂しとぞ

八重に咲く牡丹桜をかつて我が作業の行き来に愛でし思ほ  
ゆ

八重桜咲き極まりぬ療園に今宵たつ風優しくあれよ

年ごとに小林公園の整備され言ひし私の歩み易きよ

花見会に伴われ来し小林公園八重桜はすでに散りかけてを  
り

は具体的によくわかる。

## 選のあとで

### 水野昌雄

沢田五郎氏——骨折したあとのさまざまな思いがうまくまとめられている。いつの間にか骨がもろくなっているであろう。そうしたことを実感した哀感がじめじめしたところがなく、大らかに歌われているのは何よりである。九首目の「ほととぎすの声は鼓膜に刺さる」という強い言い方も不自然でなく、納得できる。

浅井あい氏——七十三歳になって体力もかなり衰えて来るものと思われるが、自分のいま出来ることをせい一杯に果そうとしている生き方が作品にこめられている。気負うところもなく、自然体で自分を励ましている。それだけによく伝わってくる。とらえ方も重たいドーアを膝で押しては入ってゆく様子があるがままにとらえているのがよい。表現の問題点としては一首目の結句「なお初々し」はもつと工夫があつていいだろう。

本國由利氏——電話で老いた母がピアノを弾いて聴かすという作はしみじみとした哀感をそそる。母親の情愛がピアノの響きを通して切なくも脈うつ。五首目の神社の鈴を「雨の手にあまる太さのひも」という表現

は具体的でよくわかる。

金夏日氏——朝鮮がいまも二つに別れていることをふまえて時事的なテーマに積極的に取り組んでいるのはいいことだ。時事的なテーマだとどうしても報告的になり易いが、しかし、訴えずにはいられないものがあれば、それなりに単なる報告を越えるだろう。一首目二首目いささか作者の主張が強く出すぎた感じもするが、これくらいのもたまにはあつてよい。じっさい、歌集などにまとめると、これくらいのもところどころにあつたほうが起伏があつていいのである。作品としての出来からいうと四首目の庭牡丹の作がもっともよいだろう。

田中美佐夫氏——歌いかたが大らかで、率直な表現力を示しているのが快よい作者である。二首目、三首目の結句はそれぞれ強く、ずばりと言いつつ切った形である。やたらに屈折するよりも、このようにはっきり言い切るほうが好感がもてる。五首目の結句の「午後も賑わう」あたりはもつと練つていいところだ。少し大づかみなどらえ方の印象を与える。

斉藤アキ代氏——三首目の母の歌はともよい出来栄である。母の日が来ていまは亡き母を思い出している作者の思いが静かに伝わってくる。「目に見ゆ」のところは思い出すともいえるし、目にうかんでくるともいえるが、どちらがよいか。「目に見ゆ」には少し古風な響きがある。杖供養の歌はもっとそれだけで歌ってもらいたいテーマだ。

杖への愛着もこめて。

福島まさ子氏——身辺の自然の風物を中心に歌っていて、おだやかな印象を与える。七首目のようにごくあるがままを「すでに散りかけてをり」と歌うのがよい。一首目の「朝な朝な」というのと、郭公の声とのつながりがはつきりしないのが惜しい。毎朝郭公の声を聴くのか、たまたま今

朝は聴いたのかはつきりしないからである。毎朝聴いてい  
るのなら「屈まり居れば」のところを少し工夫する必要が  
あろう。六首目の「整備され」はどのように整備されたの  
かを具体的にいうほうがなおよかったろう。手すりとか、  
椅子とか、あるいは通路とか。

# 詩



## 栗生詩話会

### 季節の香り

藤田三四郎

### 人生

小林弘明

らいを病んで五十年  
一回きりの俺の人生  
死は安らぎになるか  
人間死ぬから  
輝きもする

季節は休むことなく動いて  
私たちに恵を与えてくれます  
自然の営みの音が今朝も  
音楽のようによくなかで  
疲れきった体に活力を与え  
励ましてくれます

年を重ねれば死ぬということ  
死ねば俺の人生は終わる  
他に人生は無い  
死ぬために生きる人生  
永遠だの来世だのと  
それらは未練がましい



木々の緑の香りが漂い始めると  
私たちが酔わせてくれ  
毎日山波の山貌が変化して行く  
姿に接すると  
生きている感性が湧いてきます

ゆれゆく新緑の風の色  
移り行く季節の恵と香りが

こもれ日の日ざしの下で

ひとしづくの露が生んだ水の音

山道の路傍に

白いマーガレットの花の下で

ひそかに夏のページへ移り始めていま  
す

### 無題

越 一 人

私は耳鳴りの音を聞いていた

ごろり横になり

肘枕の腕がしびれてくる頃合いをいつ

しかわかるようになった

躰の向きをかえては

親に叱られた

叱った親をうらめしく振りかえった子

供のときのように

少しばかり顔をあげ

テレビとの視角をたしかめる  
梅雨寒むの電気炬燵の薄い布団を持ち

あげる

思 い 出

加 藤 三 郎

耳鳴りが続いている

いつから始まったかわからない

人は言う 蟬しぐれのようにと

人は言う ラジオのノイズの低いうな

りのようだ

私は耳鳴りの音を聞いている

立ち上って歩きはじめたときからの人

間の重苦しい音

私は遠い遠い音を追っている

いつも

中心に寄ろうとする背景が見えない音

右にごろり

左にごろり

ごろり横になって

私は 今日

耳鳴りの音を聞いている

かあいい目をして

小川の水を呑んでいる馬コを見ると

馬コの顔に頬ずりしたくなるおれは

勉強は嫌いで 馬はだい好き

学校から帰るなり 厩にいき

馬の喜びそうな草を採ってきては

馬に与えた

厩の入口で 轡を鳴らして

馬コはおれの方にとんできて

轡をかけた

馬に乗るときはいつも

庭先の大きい石を踏台にして乗った

馬は小さいおれを乗せ

馳ける 馳ける朝露をけ散して

保安林をぬけ採草地を馳ける

これが子供時代の朝の日課だった

さぶろう・大きくなったら

なにになるのかと  
先生に聞かれた おれは

騎兵になりたい と答える

と先生は

飛箱も飛べないお前が と

みんなから笑われた

### 嬉しい電話

香山 すえ子

夜中

間違い電話と思いながら

受話器の前で

だれだと声かけたたん

ごめんなさいとも言わないで

ブツツり切られた間違い電話

一人前の人間が

ごめんなさいとも言えないと思うと

なお腹が立つ

今年は今も聞かれないと寂しかった

詩の先生の声

そばに古卷さんがついていて

やと喋ってくれる先生の声

思いがけない先生の声

あたしは駄々っ子の子供みたいに

こっちまで来て下さい

来て下さいと頼んでいた

まだまだ歩けんと

先生の元氣のない声

一生懸命詩を書いて下さいの

先生の言葉

ただただ嬉しかった先生の声

嬉しくて今日は良い日

あっははと電話の前でめった笑ってた

「今日はこれで失礼します」

先生の言葉は終わった。

しょっちゅう電話かけてもらいたいん

だけれど

先生の声が聞きたいんだけど

駄目だろうな

間違い電話の時には嫌になったり

先生の声を聞きたい時には好きになっ

たり

あたしの気持

忙しいな

### 落書

桜井 哲夫

分教場の教室の黒板に

へのへのもへじの落書きいた

先生の長い竹の棒が頭に

コッチン

黒板に書いた落書の顔は俺の顔

夏空に遊ぶ白い雲を千切って咲かせた

ような

夏椿の咲いている丘を

巢立ったばかりの岩燕の飛ぶ空の下を

へのへのもへじで散歩する

喉が渇くとお茶を飲み

風邪を引いたら早く寝て

腹が空いたら飯食って

一日一回糞垂れて

小便しては屁を放いて

何の自慢話もないけれど

へのへのもへじの一日だ

二十本一箱九十円の

ゴッレデノバットをバイナリに挿して

落書きした

へのへのもへじの

一本四円五十銭の煙草の煙

今夜も抱いて寝ましょうか

俺に良く似た落書きを

二十本一箱九十円の  
ゴールドデンプットをパイプに挿して  
鼻から吹かした煙草の煙  
張り替えたばかりの壁紙に

一本四円五十銭の煙草の煙  
へのへのもへじの  
落書き書いた

膝を抱えた一人寝の

俺に良く似た落書きを  
今夜も抱いて寝ましようか  
今夜も抱いて寝ましようか  
へのへのもへじの落書きを  
煙が書いた落書きを

川柳



渡邊 蓮夫 選

田中 美佐夫

折れた杖よ心置きなく杖供養  
大安に巢立つ話に発つツツバメ  
杖と靴揃えて眠る身嗜み  
老盲の避難訓練車椅子  
○見えぬ目の野鳥観察声を聴き  
懐に石楠花咲かす白根山

雪谷 ささね

○生かされて生きる気奮うりハ科室  
無頓着邪魔にならねばそれでよし  
頼られている白杖何時も気ぜわしい  
思ってもいない夢見た後の味

言いたくも言えない事を空に言う

影山 セツ子

野を埋めて緑の生命逞しい

○一途に生きる雑草の根の強さ

良い事は胸に刻んで今日も生き

百歳の元氣老いては居られない

長生きを願ひ夫に気を配り

藤田 峰石

八重桜花見のナースみな美人

傘差して女が歩く花吹雪

雨垂れの音もやさしい春の雨

○生きている証しに今朝も髭を剃る

影山 晴美

巣箱から日増しに雛の声元氣

朝顔の色は分らぬ苗を買う

○食事時立って座って妻忙し

老いて尚忙しい日々ありがたし

萩 よし子

○只今と言うよう燕やつて来る  
餌やれば仲間も連れて小鳥来る  
暖かくなれば来るかと姉弟待つ  
杖ついて歩ける内は良しとする

塚田 きよ

やつと咲く桜へむごい雪が降り

川柳を学んで視野が広くなり

○一人部屋一輪の花に話しかけ

西山 宏二

タンポポが春が来たよと告げている

○ゆらゆらと陽炎眩し春の道

峠道ライトへ光るタヌキの目

## 選後評

渡邊 蓮夫

美佐夫さんの「見えぬ目の」の句、バードウォッチング  
野鳥観察という「見る」ことと思いがちだが、ウォッチングの意味はもっと広い。それに注意するという意味もある。耳を傾け野鳥の声でその種類や鳴き声の意味などを知らるのも野鳥観察の楽しみだろう。ささねさんの「生かされて」、園の医師、職員は皆、患者たちが健康に生きて行

くように気を配り努力している。ならば患者側もそれに応えて、たとえ苦しいリハビリでも「生きる気奮」を立てねばなるまい。セツ子さんの「一途に生きる」、雑草の強さ、種子を微塵に撒いて子孫を繁栄させるのもあるが、地中深く根を張って、ちょっとやそつとでは抜ききれない根で生き残るものもある。「地にしがみついて雑草冬に耐え」は私の句。人間も学ぶべきものがある。峰石さんの「生きている証し」、毎朝髭を剃るのは時には面倒にもなる。だが次々に髭が伸びてくるのは生きているし、男の宿命としてあきらめるしかあるまい。晴美さんの「食事時」、夫は妻と一緒にゆっくり食事を楽しもうと座っていればいいかもしれないが、それを用意する妻の方は忙しい。座っても、魚が焼けた、皿をもう一枚、お茶を入れねばなどと、立ったり座ったり、忙しい。お蔭でゆっくりしてられる亭主のありがたさ。よし子さんの「只今と」、今年ももう来るころと待っていた燕がやって来た。長旅から帰って来た子のような懐かしさ。渡り鳥の燕にとって南と日本とどっちが「ただいま」の国だろう。きよさんの「一人部屋」、一人住まいの部屋に花一輪、傍から見ればさびしい風景にも見えるが、本人にとってはその一輪の花が子か姉妹かのように親しさを感じさせ、さびしさを忘れさせてくれるのだろう。宏二さんの「ゆらゆらと」、やわらかな春の陽さしも、かげろうは光を倍増して目にまぶしい。

# 私の履歷書

原 博 章

(はら ひろあき・齒科医師)

私は昭和四〇年五月、岡山県の倉敷市児島に被服業を営む父と、それを手伝う母の長男として生まれました。

岡山県は本州の西にある中国地方五県の内の一つであり、海をはさんで四国の香川県と瀬戸大橋でつながった県です。他には日本三大名園として有名な後楽園、白壁の町で有名な倉敷の美観地区、あるいは瀬戸大橋の岡山側の玄関口にある鷺羽山さぎばたなどが有名です。相撲が好きな方なら、昔鷺羽山さぎばたという名前の力士がいたことを憶えていらっしゃるのではないのでしょうか。その鷺羽山の出身地は、私が生まれた児島なのです。その鷺羽山のお兄さん？か親戚にあたる人が児島で鷺羽山という「ちゃんこ料理屋」を開いていて、場所後には時々親方が帰って来るそうです。私も一度行ったことがあります。おもしろかったです。

また、邑久の長島には邑久光明園と長島愛生園の二園、向かいの香川県には大島青松園と近くに三つのらい療養所があります。楽泉園の方々も、交流会等で岡山のほうへ行かれたことがある方も多いのではないかと思います。

岡山の気候は非常に温暖で、冬はそれほど寒くもなく、夏は適度な暑さといったところでしょうか。ここ草津と比べると、かなりの温度差があるように思います。先日、岡山に帰る機会がありました。こちらでは、夜まだ寒かったのに、岡山の夜はすでに寝苦しいぐらゐの暑さでびっくりしました。草津の夏は非常に過ごしやすく、気持ちいいということなので楽しみにしています。

岡山の紹介はこれぐらいにして、私の小さい頃に話をもどしてみたいと思います。子供の頃は割と意地が悪かったようで、生まれたばかりの弟の顔の前でチューインガムのぼして写真に写っていたり、ひとの子供のおもちゃにペンを塗って、親にこっぴどく怒られたりしたことを今でも憶えています。

小学生の頃は太っていて、親が運動会で私を捜す時は、顔ではなく足を見て、太いのを見つけると、それが私だというぐらゐでした。そんな私でしたから、あまり運動は好きではなかったのですが、四年生から水泳、ソフトボール

などをするようになり、少しずつ運動が好きになったようです。

そして、中学校では背が伸びるかなと思ひ、バスケットボール部に入りましたが、身長は伸び悩み、思ったようにはいきませんでした。そのまま高校、大学とバスケットは続けていきましたが、結果は見ての通りです。

大学の終わり頃に「ゴルフが安くできる」ということだけで、名前だけのゴルフ部をつくり、友達とゴルフを始めました。クラブをかついでまわれば、二千元でゴルフができたことはありがたいことでした。卒業してからは、どっぷりとゴルフにつかかってしまい、よく練習には通いました。もう二千元では出来なくなり財布の中身と相談してかにならなくなってしまいました。

また、前任の樋口先生達と二年程前からスキーに行くようになって、冬は毎週のようにスキー場に通っていました。とは言っても、草津のように一〇分も走ればスキー場に行けるような良い所ではなく、朝五時に集合して三時間以上かけて、やっとスキー場に着くというハードなものでした。昨年の秋に、この四月から私が草津に行くことが決定したので、昨年の冬にはスキーの道具をすべて買い揃え、今年の冬には力一杯滑りたいと今からワクワクしています。ゴルフでは樋口先生に勝っているのですが、スキーでは負けているので是非とも追い抜いて差をつけたいと思っています。

は知りませんが……)

と、いの方ばかりなので楽しく診療させてもらっています。

歯科も、面白い山田さんを始め、戸野倉さん、下田さん

こんなふうには書いてみると、私は遊ぶことしかしていませんように思えますが、その通りです。いやいや仕事のほうも忘れてはいません。私が歯科医になろうと思ったのは、

高校一年生の頃だったと思います。進路を決める時に、何になろうか考えました。その時、なりたくないなあと思ったのが医者でした。自分の頭の中身は別として、すごい憧れをもっていました。ところが医者は血を見る機会が多いと思ひ、昔から手先は割と器用だと自分では思っていたので、あまり血を見なくてすむ歯科医になろうと思ったのです（実際は血をしょっちょう見えますが）。ところが、いざなろうと思ってみると成績が足りないことがわかり、これじゃいかんと、とにかく高校の時は猛勉強しました。そのおかげで、試験では落ちたと思つた岡山大学に合格することが出来ました。その後、高校の時の反動かどうか大学では二度ほど落第しかけたことが出来ましたが、何とか切り抜けて無事卒業し歯科医師となることが出来ました。その後は岡山大学に残り、歯周病を専門に三年間勉強し、この春からこの楽泉園にお世話になっているという次第です。

樋口先生とは大学の時の同級生で、出席番号も前後という気持ち悪いような関係ですが、二人で旅行した時に「兄弟か？」と言われたこともあり（どこが似ているのかわかりませんが）、非常に仲は良いです。その樋口先生から、「草津はいい所だよ」といつも聞かされていましたが、来てみて本当にいい所だと思いました（また本当の冬の草津

下さい。

長くなりましたが、少しは私のことがわかって頂けましたでしょうか。こんな私ですが、どうぞよろしくお願ひし

は知りませんが……)

齒科も、面白い山田さんを始め、戸野倉さん、下田さんと、いい方ばかりなので楽しく診療させてもらっています。みなさんも何かありましたら、気軽に齒科をのぞいてみて

下さい。長くなりましたが、少しは私のことがわかって頂けましたでしょうか。こんな私ですが、どうぞよろしく願います。

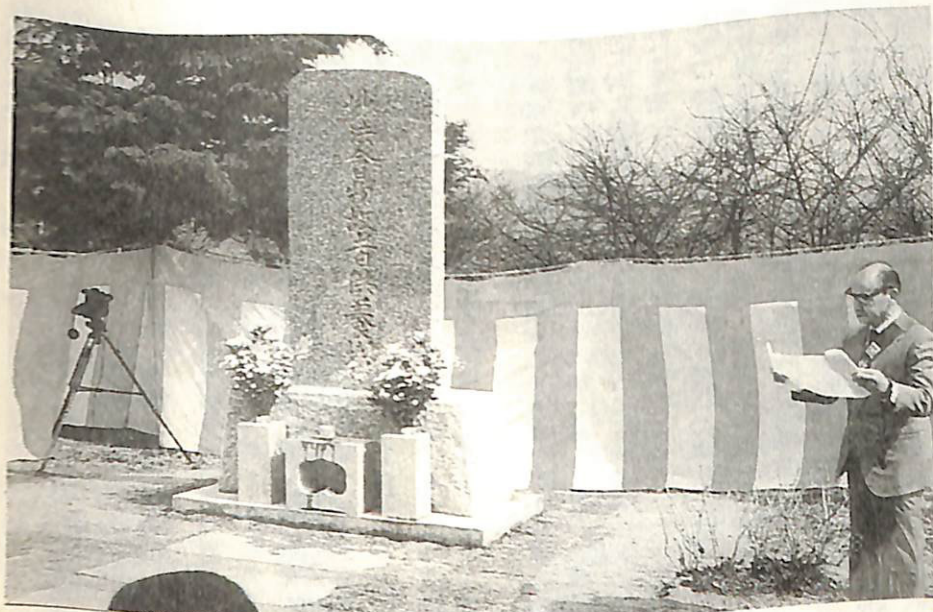
## 妙法会物故者供養塔建立の慶び

日蓮宗栗生妙法会々長 川上 勇

恩師深敬院日琢上人が昭和二十七年十月十五日妙法会御堂を建てて下さいました。その時に御上人が、日蓮宗務院に対し妙法会で毎年九月行なわれる施餓鬼法要には宗務院より御上人を派遣され導師を務めてもらいたい旨お約束して下さいました。現在は歴代の護法伝道部長様御導師のもと他二名の御上人様、本県より歴代の宗務所長様、妙法会駐在布教師様が御来堂下され施餓鬼法要を行なって頂いて居ります。その法要に妙法会創立以来物故会員之諸霊位施餓鬼会水向供養之塔婆が供えられねんごろに営まれます。法要後は御堂境内裏に立てて居りました。

昭和六十二年より現宗務所長鈴木海祐様がここへ来て、ただ塔婆だけ立っている、そういう所でなくもう少し供養

塔の様なものがあつたらなあと小野文珠駐在布教師様にお話しされていた様です。本日式典の御挨拶に鈴木所長様は、昨年の開堂四十周年記念法要に間に合えば良かったのですが、丁度群馬県では日蓮宗を挙げて護法統一信行会をつくり記念法要を致します準備に追われまして、此方の方まで手が届きませんでした事を、深くお詫び申し上げます。護法大会が終りまして各寺院にお計りして、各寺院から御浄財を頂きまして立派な供養塔が本日（平成五年五月八日）出来上りました。どうぞ会員の皆様これからもずっと永くお丈夫で生きられ、この供養塔を見守って頂きたいと思います。どうも有難う御座いました、との御挨拶を頂きました。



妙法会堂に建立の物故者の供養塔

栗生の里もようやく雪が消え遅い春が訪れ、桜がほころび始めて来ました。

平成五年五月八日この良き日に当り、お忙しい中を、日蓮宗群馬県宗務所長鈴木海祐様始め宗務所管内諸寺院御上人様大勢御来堂下され、園当局より園長田中淳先生副園長渡辺諄二先生、福祉室長富岡洋様、自治会長田中梅吉様、自治会副会長藤田三四郎様御列席下され誠に有難う御座いました。

只今は鈴木海祐所長様御導師のもとに、妙法会物故者供養塔建立除幕式法要が厳肅に行われ、同時に修法師會長長川市妙法寺荒海紹上人、新町妙見寺佐藤智得上人、富岡市本城寺田村照明上人、高崎市正法寺石橋要英上人、沼田市妙光寺田代経量上人、桐生市寂光院村野宣祥上人の加持祈禱に依り、開眼法要が盛大に挙行とどこうりなく終了されました事を会員一同心より感謝致して居ります。

昨年十月五日駐在布教師小野文珧上人に依り地鎮祭が行なわれ、十月二十七日に田中石材さんが基礎コンクリを打たれました。今年に入り雪どけを待って四月二十日見事建立され、本日式典の運びと成りました。台座四尺六寸×一尺七寸、高さ二尺、重さ二トンもあるガッチリした御影石、その上に高さ六尺、巾二尺五寸、厚さ五寸

の福島産の御影石に鈴木宗務所長様の直筆で表面に、妙

法会物故者供養塔、裏面は妙法会創立四十周年記念平成

五年五月吉日、日蓮宗群馬県宗務所建之と刻まれている

平成五年五月八日

日蓮宗栗生妙法会々長

川上

勇

の福島産の御影石に鈴木宗務所長様の直筆で表面に、妙法会物故者供養塔、裏面は妙法会創立四十周年記念平成五年五月吉日、日蓮宗群馬県宗務所建之と刻まれています。その威厳と立派さに会員一同只々感無量であります。

昭和九年六月入園者でお題目を唱える者十数名が心を一ツにし妙法会を創設し、それ以来今日迄に物故会員一九三名の霊位が安らかに眠られる供養塔が建立されました。これは昨年九月八日行なわれた栗生妙法会開堂四十周年記念行事の一環として、鈴木宗務所長様の有難いおはからいに依り日蓮宗群馬県宗務所管内諸寺院より尊い御寄進がよせられ、御堂境内に供養塔が建立されました。誠に有難く厚く御礼申し上げます。

只今は鈴木宗務所長様の御法話を拝聴させて頂き、園長田中淳先生、自治会長田中梅吉様よりお祝辞を賜り誠に有難う御座いました。

今後は、朝な夕なに合掌し先輩諸靈位に御堂を見守って頂く事を祈念し、現会員もいよいよお題目に精進する決意でありますから今後共よろしく御指導の程お願い申し上げます。

又、日蓮宗群馬県宗務所より御宝前に多額のお供物料を頂き誠に有難う御座いました。

終りに成りましたが、供養塔建立に当り駐在布教師小野文琬上人のお骨折りに感謝し、謝辞にかえさせて頂きます。



# てねを訪園生全

作家園ケースワーカー

鈴木勝也

昨夜は全生園に一泊して、今朝、全生園医療ソーシャルワーカー中村保さんのご案内で、園内を散歩すると、桜がまさに満開でした。歩いて行く所々、桜の花でいっぱいです。聞くところによると園内の桜の木は、昭和三〇年前に植えられた大木が約二〇〇本、三〇年以後の若木が約三〇〇本、計五〇〇本あるそうで、それらが競い合うように今が盛りと咲き誇っていました。

一九八六年に調査した全生園緑化委員会の「園内樹木一覽」によれば、二五二種類の木があり、草花は一五〇種類以上にもものぼり、園内には約三万本の樹木が植えられているということです。

ある入園者の方は、「四、五日前までは中央通り（この通りは主要道路で、道路左右には椿、山茶花、白木蓮、沈丁花等が植えられている）の白木蓮が見事だったが、先日冷え込みで、一夜の内に駄目なっちゃったよ」と残念そうに話していました。園内に咲いている花を歩きながら見てみると、旧盲人会館前のコブシが青空へ吸い込まれるような風情を見せ、精一杯に真っ白で可憐な花を咲かせ、中央通りの赤・ピンクの椿は、全体としてはまだ五分咲きですが、八重咲、一重咲などいろいろな花が咲き始めていました。今年は霜が降らなかったため、山茶花がいつまでも咲いてくれて、その山茶花が終ると、すぐ椿の花が咲くというふうな、一年中花がとだえることなく、春を迎えることができそうです。雪柳、レンギョウ、木瓜、枝垂れ桃

など比較的庭木の花がよく咲いているのも目に留まりました。草花ではやはり、スマイレ、タンポポが一番多く、特に色鮮やかな水仙や桜草が、道を往来する人達の足をとめてい

説明は聞いてきましたが、こんなに広い所で、こんなに美しい所とは想像もしませんでした。今まで病気に対する私の思いは間違っていました。私は健康の続く限り、これが

など比較的庭木の花がよく咲いているのも目に留まりました。草花ではやはり、スミレ、タンポポが一番多く、特に色鮮やかな水仙や桜草が、道を往来する人達の足をとめていました。実に春爛漫といった感じでした。

午後再び園内を散歩して驚いたのは、自転車に乗った外部の人が多いことと、入園者らしき方にはほとんど会わなかったということです。私がカメラを持っていたため、ある親子連れの方が「おじちゃん、写真撮って下さい」と言うので、私は得意になってシャッターを切ると、「おじちゃん、所沢の上安松の新井幸子宛に、この写真送って下さいね、楽しみに待ってます」と、あっけらかんとして言う。こちらは狐につままれたようでしたが快くOKしたのでした。都会(？)の子供達は、こうもさく、いものなのかと驚かされました。出会う方は、皆お馴染みの地元の人達だそうです。

桜並木の下はいつしか人でいっぱいになり、お弁当を食べたりお茶を飲んだりして歓談し、本当に楽しい様子でした。また、ある老人ホームの一行約一〇〇人位の人達が、職員介護を受けて楽しそうにお弁当を食べていました。介護員さんに話を伺うと、「全生園でのお花見は年中行事となっておりますから、ホームの入園者は今日の日を楽しみにしているのですよ。ほんとに今日は好天に恵まれて感謝です」と話してくれました。また、ある方は、「初めてここにお伺い致しましたが、先輩達にハンセン病について

説明は聞いてきましたが、こんなに広い所で、こんなに美しい所とは想像もしてませんでした。今まで病氣に対する私の思いは間違っていました。私は健康の続く限り、これからは毎年皆様のところへお邪魔します」と言っておりました。

さらに歩いて行くと、婦人会のグループに出会い、その中の一人が、「この園の樹木には、一本一本立札があり、細かいところまで配慮されていて、私達は大変勉強になります」と丁寧にお礼を述べられておりました。

今日は私達の目的を済ませてから、多磨カラオケクラブのご配慮により、その晩、夜桜見物に誘われました。桜並木には外部からのお客が大勢来ていて、思い思いに車座になり、ビールを飲み交わしていました。私達も車座になってバーベキューを始めると、美味しそうな肉の匂いに誘われてか、隣のグループの親子連れが私達の所へ割って入って来ました。その子供が私の膝の上にピョンと跳び乗り、さかんに何か話し掛けてきたのです。私は前述のカメラの件が脳裏をよぎり、また少しの酔いも手伝って対応していると、「僕は三年生の透、あっちにいるのがお姉ちゃんで、美保、五年生だよ」と言う。肉をつまみながらしばし私は子供とお喋りをしていると、お父さんがビールをつぎに来た。すると美保ちゃんが跳んで来て、「お父さん、これから川口まで車で帰るのだから、あまりビールを飲むと運転が危ないから、飲ませないで」と私に哀願する。栗生の場

合、外部との交流はグループ毎の交流が多いのですが、土地柄のせいもあり、近隣の子供が自由に遊びに来ることはないのです。勿論、全生園が開放的であるがゆえに、外出時の施設等、いろいろな問題点もあるようですが、私が今回初めて全生園を見た限りでは、偏見差別とは程遠い自由療養地区という印象を受けました。

また、このように桜満開の好季節に訪問することが出来、大自然の恵みに感謝せずにはいられませんでした。

以上が、四月二、三日栗生・多磨カラオケ交歓会に参加させて頂いた時のことです。

先に、大島青松園を訪問する機会をいただき、この度の全生園が二園目ですが、これからも出来るだけいろいろな療養所、病院を見聞させて頂きたいと思えます。井の中のかわず大海を知らずにならないうちにも。そして、これらの体験、交流から得たことを楽泉園の福祉向上に、いくらかでも還元出来たらと考えます。



### 『好評発売中』

## 藤田三四郎詩集

この詩集の作品を内容的に整理してみると、次のように類別できる。

- (イ) 豊かなヒューマニズムにもとづく抒情性
- (ロ) ハンセン病患者としての個と同病者の共生感
- (ハ) 患者自治会長としての治療行政や社会への

### 実践的な奮闘記

詩集の配列は、初めての選詩集ということで作順に編んだ。二百編近い作品の中から約半数、百編程を抄出したものである。これらの詩を書き続けてきた作者の詩的エネルギーと、実践的バイタリティは感動を呼ぶだろう。

斉田朋雄

上製本カバー付・B6版・二四三頁

定価二五〇〇円・送料三〇〇円

発行所 樹青磁社

東京都千代田区神田乗物町一七北乗ビル

※ご注文は著者(左記)まで

377-17 群馬県吾妻郡草津町六五〇

藤田三四郎

☎〇二七九一八八一四〇八三

園内日誌

(6月)

- 1日 高松宮記念ハンセン病資料館落成祝賀式典時に於ける書籍等展示について連絡を受け会員にその旨を徹底する。
- 2日 群大医療短大理学療法学科3回生18名、リハ科を中心に園内見学。
- 3日 長島親善団一行草津町見学。
- 4日 長島親善団善光寺へバスレク。
- 5日 長島親善団榛名方面バスレク。
- 6日 第13回つじ祭・杖供養。
- 7日 栗生盲人会主催によるこの催しは今年13回を教える。当日は雨天のため中央会館に場所を移して行われた。
- 8日 奄美和光園開園50周年記念史「光仰ぐ日あるべし」一冊寄贈。
- 9日 リハ作業として正門への坂道両側に植えるサルビアの移植準備を30名が
- 10日 高松宮記念ハンセン病資料館落成祝賀式典出席代表の件(2名)。
- 11日 全忠協135回書面会議の件、そのほか。
- 12日 厚生委員会、施設関係職員懇談。
- 13日 生活委員会、給食側と懇談、そのほか。
- 14日 高原編集委員会。
- 15日 群馬フラワーパークへバスレク。
- 16日 執行委員会。
- 17日 全忠協第135回書面会議の件、平成6年度ハンセン病関係予算要求統一行動実行委員会解散の件、ほか。
- 18日 地方医務局陳情実施。
- 19日 皇太子結婚のための祝日。
- 20日 合同慰霊祭。
- 21日 午前9時より平成5年度物故者合同慰霊祭しめやかに挙行。
- 22日 地方医務局黒田専門官ほか2名、面宿整備の打合せに来園。
- 23日 全忠協事務局一行8名、慰労休暇を利
- 24日 群馬県衛生保健部保健予備課清水克己氏ほか2名、県人会員慰問のため来園。
- 25日 全忠協事務局一行白根山經由善光寺へバスレク。自治会正副会長同行。
- 26日 全忠協事務局一行離園。
- 27日 14、16日 新潟県人会郷土訪問。
- 28日 庶務委員会。
- 29日 全忠協第136回書面会議、そのほか。
- 30日 第8回グループカラオケ祭。
- 31日 リハ作業による正門坂道端のサルビアの苗植えつけ、41名参加。
- 1日 天理教染泉園布教所月次祭。
- 2日 全忠協第137回書面会議回答。
- 3日 榛名湖へ栗生盲人会バスレク。
- 4日 会計課より第1・四半期示達予算について説明受く。
- 5日 厚生委員会。
- 6日 高齢者誕生祝賀会、友園親善交流について、そのほか。
- 7日 三重県より片岡郁三氏ほか13名県人会員慰問のため来園。
- 8日 宗教連合会代表者会議。

23日 作業運営委員会。

24日 高齢者会では、この日と30日の二日に分けて信越高速道を経由して上田方面へバスレク。

慰安会評議委員会。

防火訓練。

自治会正副会長、田中園長、小林名譽園長と共に高松宮記念ハンセン病資料館落成式に出席。

共同募金監査(於前橋福祉会館)

田中会長、高松宮記念ハンセン病資料館落成報告。

栗生カラオケ愛好会員9名、高崎市文化会館で開催のひまわり歌謡祭に参加。

草津町役場職員加藤幸克氏退職にあたり自治会より感謝状と記念品を贈る。

氏は役場職員として在職中は、草津町社会福祉協議会事務局長として活躍され、衆泉園患者自治会、栗生盲人会のうえに多大なるご尽力を下された。

多磨全生園に於て開催の全国友園カラオケ大会へ栗生カラオケ愛好会より4名が出場した。

東京都衛生局金田麻里子様ほか2名都出身者慰問のため来園。

茨城県視覚障害者代表海老原長巨氏ほか29名、県人会員慰問のため来園。崇信会東秀和師迎え聞法会。

謡曲教室(リハ科)おさらい会。

小林名譽園長先生、渡邊先生、その他にお客様を迎え夏の「おさらい会」を行った。

28日

27日

26日

25日

30日

30日

30日

30日

30日



寄贈図書(6月分)

陽	天理教国内布教部
多	多磨全生園多磨編集部
青	大島青松園編集部
樹	樹木社
菊	菊池恵楓園慰安会
短	短詩形文学発行所
愛	長島愛生園慰安会
日	日蓮宗新聞社
始	星塚敬愛園慰安会
軌	桐生市 久保田 稷
天	天理時報社
新	東北新生園慰安会
甲	松丘保養園慰安会
フ	時事画報社
か	鐘岬の会 松井 保
白	大阪府 荒木聡子
J	
L	
M	
J	
L	
M	

編集後記



## 国立療養所栗生楽泉園の概況

(平成5年4月1日)

所管	厚生省
園長	厚生技官 田中 淳
所在	群馬県吾妻郡草津町大字草津乙647番地
電話	草津温泉局 0279-88-3030(代)
交通の便	吾妻線長野原草津口駅下車、JRバス草津温泉行に乗車、終点から約3km
創立	昭和7年11月16日
敷地面積	733,306㎡
建物	261棟38,774㎡
経費	国費支弁、患者の入所費は無料。所要経費年間約29億円 (平成4年度)
職員	職員数297名(定員職員246名、定員外職員50名)
病床数	医療法 781床 予算定床 474床

### 編集後記

今月の「高原」、次の方々からご寄稿いただき、編ませてもらった。全生園内に完成した「ハンセン病資料館落成式に出席して」の模様などを藤田三四郎氏。「一期一会」、「高原」誌との出会いを織りまぜての一文は六合村龍澤寺住職明田川道雄氏。歯科医師原博章先生からの「私の履歴書」を。妙法会堂南側に建立の「妙法会物故者供養塔建立の慶び」を同会々長川上勇氏。ケースワーカー鈴木勝也氏(福祉室勤務)の「全生園を訪ねて」が内容。▲今日も冷い雨である。しかしその雨をぬきにしては、日本の季節はふぬけになってしまう。古来から日本人にとって雨は生活の土台を支えて来た。まさに雨は神の恵みなのである。▲が、今年の夏は異様な感じがする。10日遅れの梅雨が7月末に明けはしたものの、戻り梅雨とでもいうのか……8月に入っても肌寒い日が続いている。去年は猛暑の夏、今年は逆に明けても暮れてもあめ……あめ……。▲常ならば暑さの中の朝夕の風に秋の気配が感じられる時節であるのに、さてこの夏は不透明のまま逝ってしまうのだろうか。雨をのろうわけにはいかないが、九州地方の豪雨……そのたびに伝えられる悲しい知らせに胸が痛む。

(8月9日記す) 「丸山」

# 国立療養所栗生楽泉園の概況

(平成5年4月1日)

所管	厚生省
園長	厚生技官 田中 淳
所在	群馬県吾妻郡草津町大字草津乙647番地
電話	草津温泉局 0279-88-3030(代)
交通の便	吾妻線長野原草津口駅下車、JRバス草津温泉行に乗車、終点から約3km
創立	昭和7年11月16日
敷地面積	733306m <sup>2</sup>
建物	261棟38774m <sup>2</sup>
経費	国費支弁、患者の入所費は無料。所要経費年間約29億円 (平成4年度)
職員	職員数297名(定員職員246名、定員外職員50名)
病床数	医療法 781床 予算定床 474床

平成

五年

七月二五日  
八月一日

発行  
(月刊)

高原

平成五年  
八月号

編集 高原編集部

発行者 財団法人 栗生楽泉園慰安会

印刷者 軽印刷 ぶどうぱん社

発行所 群馬県草津町大字草津六五〇

〒三七七一七

栗生楽泉園入園者自治会

丸草津〇二七九(六八)三〇三〇(代)